

<総評>

札幌時計台雲母保育園

<評価の高い点>

1、「環境を生かした保育実践」

室内は、部屋割りではなく、2つの広い空間を活用して異年齢保育、年齢別保育を行っています。なわとび、鉄棒、竹馬、など体を動かす遊びのときは、広い空間を有効に使い、お絵かきや制作、カプラ(積み木)など集中した活動をするときは、パーテーションを利用して遊びの確保をしています。

食事、排泄、衣服の着脱、睡眠などは年齢により生活習慣が異なるため、パーテーションや囲いの防音マットで仕切ること、子どもの状態に応じて援助ができるようにしています。子どもの生活と遊びが豊かに展開できるよう環境を整えています。

2、「食の出会いから始まる子どもの育み」

「食との出会いから心身共に健康で豊かな人を育てる」の食育スローガンを掲げ、職員が一丸となって食育に力を入れています。

0歳児から発達に応じて実施するクッキング保育では、給食づくりのお手伝いも保育の中に取り入れています。畑で収穫した野菜の調理方法、食材の買い物から調理後の食事まで携われるようにしています。

献立は、「秋の味覚を楽しもう」など毎月バラエティーに富んだメニューで提供しています。また、子どもたちの健康と安全を第一に考えた低温殺菌牛乳や発芽玄米、無添加調味料などを使用しています。

食育専用の「栄養ノート」も活用し、咀嚼や飲み込み、離乳食、食具の導入、アレルギー対応など管理栄養士が保護者をサポートしています。常勤の管理栄養士・栄養士3名(うち1名は保育士資格も所持)がおり、保育士と協力し合って子どもの健康で豊かな食生活を育んでいます。

3、「情報が網羅された入園案内」

雲母保育園では、見学者への説明に「入園案内」を使用しています。「入園案内」には「雲母保育園の考え」から保育スローガン・特色をはじめ、行事予定、一日の流れ、保育時間・料金、持ち物を記載しています。さらに、持ち物や利用規約、嘱託医、施設概要など、保護者が知りたい情報が網羅されています。入園の説明会でも同資料を使い、緊急時・災害時の休園措置基準や、意見・要望への仕組みフロー図、「全体的な計画」等を説明しています。

「入園案内」は重要事項説明書を兼ねており、最終ページに同意欄が設けられています。読みやすくなるように写真やイラストの使用や文字の大きさや色合いにも心配りがあり、毎年内容を見直し、保護者の目線にたった「入園案内」になっています。

4、「人事労務管理の効率化」

人事・労務等については、施設長が園内の状況を取りまとめたのち、実務は本社で一括して行っています。そのため、園内での事務作業を軽減し、保育の質の向上に時間を振り向けることができます。

本社は、施設長が面談等で得られた職員の希望等及び職員の適性を参考にし、人員配置を計画的に検討し実行しています。また、人員配置についても全国的な規模で管理しており、職員の事情に対応できるようにしています。北海道では札幌市内に4つの姉妹園があることから、状況に応じた異動や交流研修等が可能となっています。

< 質の向上のために求められる点 >

1、「保育園と職員の2つの自己評価による保育の質向上」

指導計画と日誌に「職員の評価と振り返り」「子どもの振り返り」の欄を設け、子どもの育ちや内面の理解、保育についての気づきや省察を記載し、保育内容の改善に努めています。また、年2回、「職員自己評価チェックリスト」を全職員が実施しています。施設長との面談で、課題を示して意識付けを行い改善に向けています。

園では、第三者評価の自己評価での判断基準への省察も深く、個々の意識の涵養と共に専門性の向上を更に高めていく考えです。更なる保育の質向上のためには、個々の職員の自己評価と園全体の自己評価が結びついて継続することが期待されます。

2、「気づき力向上のために」

保育園では、リスク管理規程、業務マニュアルでリスクへの対応を定めています。緊急性の高いリスクには、職員室や保育室に対応を掲示しています。2023(令和5)年4月作成の「安全計画」は、「安全教育・管理・点検・職員研修・保護者への啓蒙」等の項目に分け、2か月ごとに職員の評価と子どもの振り返りを記録しています。

ヒヤリハットについては、朝礼・昼礼で共有されているものの、職員の「危険への気づき」レベルを上げ、改善・再発防止を強化するためにも、ヒヤリハットの要因分析や、より見える形での収集が期待されます。